

1. 活動名

自分の好きなものを探そう

2. 子どもの姿と読み取り

- 園生活の流れがわかってきており、身の回りのことをしてから遊ぶことや片付けた後にはトイレに行くことや椅子を持って来ることなど、がわかってきている。個人差はあり、保育者に促されたり、手伝ってもらったりしながら行う子どももいるが、そのような子どもたちもわかってはいるようで、できた時には保育者と一緒に喜んだり、少しでも自分でできた時には伝えに來たりする姿がある。保育者に見守られたり手伝ってもらったりすることで、安心して園生活を送ることができているようだ。
- 保育者に自分から話しかけたり、要求を態度で表したりするようになってきている。保育者の近くで遊ぶことで安心したり保育者ががする遊びを一緒にすることで遊びだせたりしていた子どもが多くいたが、自ら「今日はこれをしたい」と伝えたり、道具を要求してきたり、保育者が遊びに誘い掛けたことに対して「ぼくは〇〇する」と意思を表して遊び始め、自分で好きなことをみつけ、自分で遊びの中に楽しさを見出しているようである。
- 保育室で飼育しているカメやザリガニに餌をやり食べる様子をじっくり見ていたり、カブトムシが動く様子やダンゴムシが集まっている様子などを見て喜んだりしている。自然のものに対して関心を寄せ、じっくり見ることで、気付きや驚きを感じているようだ。
- ダンゴムシが森の入口付近に多くいることを分かっているようで、探しに行くときには自らその場へと出向いていく。園内の環境がわかり始め、自分たちの遊びの場になってきているようだ。
- ダンゴムシ探しをする途中でみつけたザクロや木の枝、クヌギの花などを拾う姿がある。ザクロは花ばかり集めたり、実を気に入って集めたり、見ているだけで拾わなかったりと、子どもによって関心をもつことは様々である。また、たくさんある木の枝から自分に丁度いいものを選んで「これ、使う!」と遊び(ジュースを混ぜる)に使おうとしたり、クヌギの花をラーメンに見立てて遊んだりする姿もある。自分の気に入ったものを使うことで遊びに広がりが見られる。
- 登園途中に見つけたダンゴムシや摘んだ草花を保育者に持って来てくれたり、園内で積んだ草花をママにあげたいからと大事にとっておいたりする姿がある。自分が好きなものを見せて喜びを共有したい思いや、保育者や保護者を喜ばせたい気持ちが伺える。
- 少しずつ仲良しの友達ができ始めた子どももあり、一対一で触れ合ったり追いかかけ合ったり、同じことをして遊んだりする姿がある。また、言葉は交わさなくても同じ場で過ごしたり、ものを介したやり取りをととても嬉しそうにしたりする姿がある。しかし、友達へのかかわり方や関心を寄せる度合いには個人差がある。

3. 目指す子どもの姿

- ・自然物の手触りを楽しんだり、形の面白さ、色の美しさなどを感じたりする
- ・森や園庭、園外保育で自分の好きなものを探したり自分で選んだりする面白さを感じる
- ・自分の好きなものや見つけたものを保育者や保護者と分かち合う喜びを感じる

4. 活動の目標(ねらい)

- 自然物の手触りや色や形、匂いなどを自分なりに感じる(知識及び技能の基礎)
- 自分の好きなものを探したり、選んだりすることを楽しむ(思考力・判断力・表現力)
- 身の回りの自然物にじっくりとかかわることを楽しむ(学びに向かう力・人間性等)

5. 評価規準

知識及び技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	学びに向かう力・人間性等
① 園内に色々な自然物があることを知る ② 自然物の手触りや色や形などを感じる	① 自分の好きなものを探したり、気に入ったものを選んだりする ② 自分の見つけたものや集めたものを保育者に見せようとする	① 自然物に関心をもち、自らかかわろうとする ② 見つけたものや集めたものを大事にする

6. 環境構成

・活動内容の設定理由

自分の好きな遊びや好きな場所などを見つけられ、主体的に遊び始めることができるようになってきている。また、自然の物に対してじっくり見たり、遊びに取り入れたりする姿から、園内や園外保育で出かけた先で、自分の好きな自然物を見つける活動を取り入れることで、自分自身で探すことや選ぶことを楽しむと共に、身近な環境により関心をもち、大事にする気持ちをもってほしいと考えこの活動を設定した。

また、見つけた自然物を保育者に見せたり、言葉で伝えようとしたりする姿から、保育者や保護者に見てもらう機会をもつ。見つけたものを保育者や保護者に伝えることで、自分の好きなものに対する気持ちを共感してもらったり、気持ちを受け止めてもらったりすることにもつながるのでと考えた。

・教材について

幼稚園は子どもの森を始め、保育室周辺にも木々や草花、石や木の枝、落ち葉木の実などが溢れている。また、附属幼稚園の近くには地域の神社や奈良公園などがあり、園外保育で出かける機会がある。季節によって変化するものや変わらずにあるものまで、子どもの身近なところにあるものを集める活動をすることで、新たなものにも目を向けることができるようにする。

幼稚園の中で好きなものを出かける。出かける際には透明のビニール袋を用意し、集める途中でも保育者に見せたり、友達のものを見たりできるようにする。

園内の草花や石、枝など子どもたちが見つけたものを、一人ずつ大切に置いておけるような場を用意する。また、おいでいただくだけでなく、好きな遊びに使えるようにすぐに手に取ることができる場に設定する。

・展開の工夫

子どもが日頃見つけたものや保育者にもってきてくれるものなどを、事前に見せ、そのものについて子どもに聞いたり保育者が感じたことなどを伝えたりする。園内で探している最中には、自然物を見たり触ったりしたしている子どもの姿に寄り添い、思いを共有できるようにする。

7. ESDとの関連

・活動を通して養いたい ESD の視点

多様性

園内外の自然物を見たり触れたりすることで面白さ、美しさを感じることで、身の回りには色々な自然物があり、同じ種類でも色々なものがあることなどに気付く。

責任性

自分で選んで集めたものを大事にしたり、遊びに使ったりする。

・活動を通して主に育てたい ESD の資質能力

多面的、総合的に考える力《多面》

自分の身の回りの自然にはいろいろなものがあることに気付く

コミュニケーションを行う力《伝達》

自分の好きなものや自分で選んだものを保育者や友達に伝えようとする

進んで参加する態度《参加》

自ら自然物を探したり集めたりしてかかわろうとする

・ESD で育てたい価値観

自然環境や生態系の保全の尊重

自然物、本物にかかわり、触れることでその良さを知る

自分の好きな身近な自然をまずは好きになり、ゆくゆくは大切に、守っていくことにつながる

幸福感に敏感になり、それを大切にする

好きなものに触れたり集めたりすることが満足感につながる。その好きなものが身近に存在していることを喜ぶ

・貢献できる SDGs

目標15 陸上資源

8. 展開

予想される子どもの活動	保育者の環境構成と援助
○自分のかばんをつくる ・袋に油性ペンで好きな絵を描く	○子どもが登園途中に拾ってきたドングリや石を見せ、この時期ならではの自然物を例に挙げながら、好きなものを見つけて遊ぶことを伝える。そのためのかばんをつくることを提案する。
○園外保育（奈良公園）で葉っぱや枝、石など好きなものを拾い集める。おうちの人にお土産として渡す	○事前に奈良公園にはどんぐりや葉っぱや枝があることを伝え、期待感をもって遠足に参加できるようにする。 ○子どもが見つけたものを見せたり、伝えにきたりしたときには、その思いを丁寧に聞き、嬉しい気持ちに共感する。
○園外保育（鏡神社）でドングリ、や木の実、葉っぱを拾い集める。	○鏡神社の方がドングリ拾いに誘ってくださっていることを伝え、たくさんドングリを楽しみに、出かけられるようにする。 ○ドングリを一緒に拾いながら、ドングリの色や形、模様などに気付く子どもがいれば、じっくりかかわり、その面白さをより感じられるようにする。 ○拾うことを楽しんだり、たくさん集めることを喜んだりするなど、それぞれの子どもが感じている楽しみを見取り、その思いに共感していく。

◎実際の子ども姿

奈良公園へ園外保育



事前に作ったカバンを奈良公園で配り「おうちの人にお土産を探そう」と伝えた。見つけたドングリを大事そうにする子ども、落ちていた石に興味を示し、石ばかりたくさん集める子ども、などがいた。見つけるたびに保育者に見せたり、「これにする」と言いに来たりする。「ドングリがほしい」と一生懸命探す姿もあった。そのまま持ち帰りおうちの人にお土産にした。

鏡神社へ園外保育



奈良公園へ持って行ったのと同じカバンをもち、鏡神社へどんぐり拾いに出かける。神社の方が「たくさん落ちていからどうぞってくださっている」ということを伝え、たくさんあることを楽しみにでかけた。保育者が声をかけるまで拾い続ける子どもが多かった。たくさんあるドングリを拾う行為が楽しく、たくさんカバンに溜まっていくことが嬉しいようで、時折かばんを自分で確かめながら、また、保育者に見せながら、拾い続けた。また、どんぐりをみながら「ぼうし、かぶってる」「みどりと茶色が混ざってる」「これは大きい」などじっくり見たり、自分が気に入ったドングリを選んで拾おうとする姿もあった。

・帰り道、「このどんぐり、どうする?」「お鍋に入れてお料理しよう」などと話す。

・幼稚園に帰り着き、出迎えてくれた先生にどんぐりを見せていた。「いっぱい拾ったね」と言ってもらい、満足そうにする。自分も自分も、と見てもらおうとする。

・保育室に入り、自分の集めたものを入れているトレイに自ら入れる。入れた後にどんぐりを手で撫でて「気持ちいい」「こんなにたくさん」などと言う姿があった。

・降園時、ひとつだけおうちの人にお土産に持ち帰る。

・料理に使うことはなかったが、通りすがりに触ったり、また後から集めたものを入れたりする姿があった。

・2学期の終わり、「このどんぐり、どうしようかな」と投げかけると「鹿さんにあげる?」と言う子どもがいた。

鏡神社から帰ってきて・・・



幼稚園の子ども森で・・・



幼稚園や家で集めたドングリで遊ぶ



自らカバンを下げて、子ども森に出かけたり、家でも拾ったドングリをもって帰る子どもが増える。集めることが楽しい様子で、大量にどんぐりを集めて、茶碗や虫かごや袋に入れたり、入れ替えたりして遊ぶ様子があった。

個人の姿

「このどんぐり、みどりと茶色が混ざってる!」と色に着目しながら拾い集めている



「Kちゃん、こんなに集まった」と自分が集めたどんぐりを見せる。たくさん集めたことが嬉しく、保育者と共有したかったようである。



友達が保育者に話しているのを見て「Rちゃんも、拾った」と保育者に見せる。友達の姿に刺激を受け、自分がたくさん拾ったことを伝えたい気持ちになったようだ。



「帽子をかぶっているどんぐりがあったよ!」と他のどんぐりとの違いを見つけている。



「Tはどんぐり、いらんねん」とどんぐりを一つも集めず、石や葉っぱを拾う。



「どんぐりが割れてるんだよ。今、むいてるところ」と割れたどんぐりに着目して、中身を確認しようとしている。

集めた数個のどんぐりを大事そうにしている。自分で気に入ったどんぐりを集め、満足そうにする。

